

ナチ・ドイツによるオーバーシュレージエン国境地域における 中心地ネットワーク再編計画

杉浦 芳夫

I はじめに

中心地理論がナチ・ドイツの国策の中で傍目にも脚光を浴びるようになるのは、1939年9月のポーランド西部占領直後のことである。それは、1939年の *Raumforschung und Raumordnung* (S. 502) において、東方占領地における中心地整備のための調査研究が、国土調査全国共同研究所による六大戦時研究の一つにはっきりとうたわれていることによって了解される。たしかに、国土計画のための基礎調査・研究を行なう目的で設立された国土調査全国共同研究所の中で、Christaller を座長とした中心地研究グループが1937年に発足してはいたが、現実には、1937年から1939年までの間にドイツの国土計画の中で中心地理論がどのような役割を果たしたのかはわかっていない。中心地理論に基づく国土計画作り（のプラン）は現実に存在したかもしれないが、ドイツの敗戦に伴って関係書類が全て焼却され、今となっては子細が不明になっているだけのこともかもしれない。

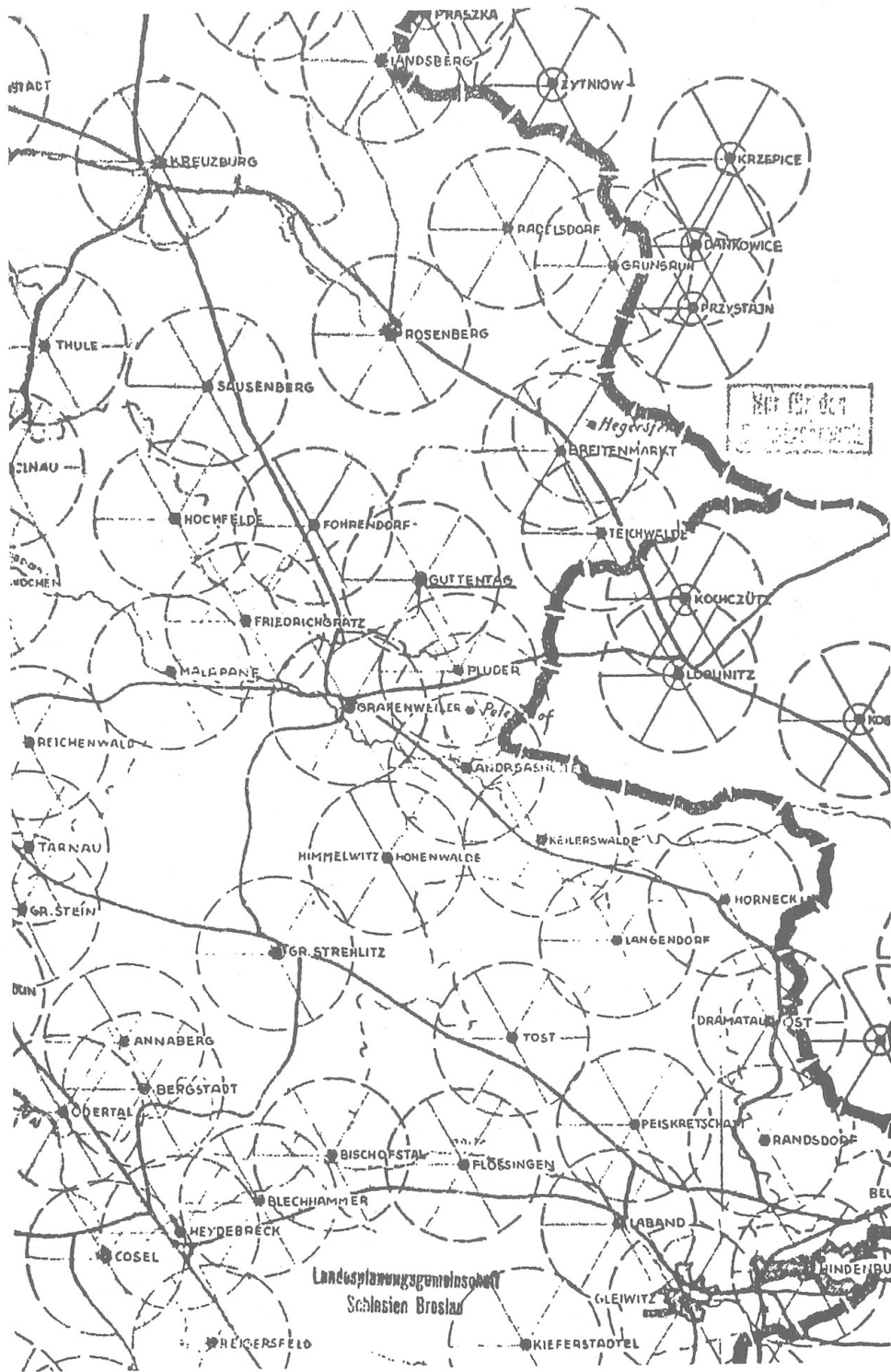
ところで、ポーランド語文献 (Golachowski, 1964, pp.172-173) によれば、1937年に、前記の研究所の傘下にあるオーバーシュレージエン国土計画共同体が、ブレスラウ大学地理学研究所とブレスラウ工科大学に対して、同地での中心地ネットワークを描き出すことを委託したとされている。この小論では、二つのポーランド語文献・「シュレージエンのヒトラー計画における Christaller の理論の役割」(Golachowski, 1964) ならびに「オポーレ県における中心集落の諸問題」(Kaniówna, 1963) に基づきながら、この委託研究結果の概要とその先にある中心地ネットワークの再編計画について紹介してみたい。オーバーシュレージエン国境地域における中心地ネットワーク再編計画については、ナチ・ドイツの国土計画ならびに東方占領地集落配置計画への中心地理論の応用の全体像を示した Rössler (1990) でも全くふれられてい

ない。ポーランド側に残されたナチ・ドイツの文書に基づいて書かれた、ポーランド語文献によってのみ知りうる事実なのである。なお、ここでいうオーバーシュレージエンとは、オッペルン（現ポーランド・オポーレ）を含むシュレージエン州（現ポーランド・シロンスク地方）の南東部をさし、ブレスラウ（現ポーランド・ブツワフ）を含むシュレージエン州中部・北西部はニーダーシュレージエンと呼ばれていた。

II ポーランド語文献にみる中心地ネットワーク再編計画

ドイツ国境地域の研究は、半ば公然と政府の支援も受けて、ワイマール期から始まっている。第一次世界大戦で敗戦国となったドイツは、ベルサイユ体制の下、東・西国境地域を割譲し、領土の13%を失った。それに反対する急進的民族主義派の研究者たちは、東・西国境地域、さらには国境を越えた東方・西方における歴史、文化、風土に見られる「ドイツ（民族）性」を究明し、ベルサイユ体制下で画定された国境の不当さを証明しようとした。そうした急進的民族主義者の動きの一つが、地理学者の Penck (地形学) や Volz (人文地理学) らが中心となって1920年代初めに設立されたライプチヒのドイツ民族・文化基盤研究財団である (Herb, 1997, pp.65-75; オーバークローメ, 2001)。この財団は1931年解散するが、そこでの東方・西方（国境）地域の研究は、他の類似の機関による研究とともに、ナチ・ドイツにも引き継がれ、国土調査全国共同研究所での研究に接続されていく。

そうした潮流の中で、国土調査全国共同研究所の地方下部組織であるオーバーシュレージエン国土計画共同体は、1930年代後半、同地の地域研究を担当することになる。第1図は、オーバーシュレージエン国土計画共同体が調査研究したオー



第1図 オーバーシュレージエンとポーランドとの国境地帯付近の中心地（1937年）
 出典：Golachowski (1964) の第1図。

バーシュレージエンとポーランドとの国境地帯付近(オーバーシュレージエンのほぼ東半分相当)の中心地とその圏域の一部を示すものである(Golachowski, 1964)。この図は、ポーランド側の地名で Praszki (スペルは原文通り; 図の中央上端) から Zabrze に至るまでの国境(太い破線)の両側をカバーしている。ほぼ半分の中心地を1930年刊行の *Andrees Handatlas* で確認できるが、残りは地名が異なっていたり、該当する位置に集落がなかったりする。また、集落はこの他にもあった。これらを勘案すると、当時の中心集落のみを「中心地」にあてている訳ではないといえよう。各中心地の圏域半径は4~5kmと推定され、ほぼ徒歩1時間の距離に相当しているが、中心地は均等に分布してはいない。注目すべきことは、割譲された旧ドイツ領は言うに及ばず、第一次世界大戦以前から変わることなくポーランド領土であった、国境を越えた東側の地帯にも、ポーランド占領以前において中心地(例えば、Krzepice)を「勝手に」設定されていることである。中心地研究グループが設置された1937年に調査研究の委託がなされ、かつその年のうちにこのような図が作製されたことは、すでに中心地理論が国土計画関連の調査研究に携わる人たちの間で一定の理解を得ていたことを物語るものである。この調査研究との関係をうかがわせるもの(Schmölders, 1938, S. 444)としては、シュレージエン地理学協会・ブレスラウ大学地理学研究所の定期刊行物第27号所収の中心地研究がある(Granicky, 1939)。全体が200頁を超える文化景域研究の一部を構成するこの研究では、ブレスラウの北西50kmにある Wohlau (現ポーランド・Wołów) 周辺の集落が、中心地、副中心地、補助中心地、分散地に分類されている。ここで興味深いのは、ある意味で景域(Landschaft)研究を批判する視点を持つ機能論的立場に立つ中心地研究が、景域研究の中に取り込まれていることである。詳細は略すが、その後のナチ・ドイツによる占領地集落計画で果たす中心地理論の役割を暗示しているといえよう。

オーバーシュレージエンの中心地ネットワーク策定のための調査研究が委託される直前の1936年、国土計画庁長官 Kerl がまとめた国土計画指針書(ケルル, 1940, pp. 75-80)では、オーバーシュレージエンでも最南東部の工業地帯(かなり

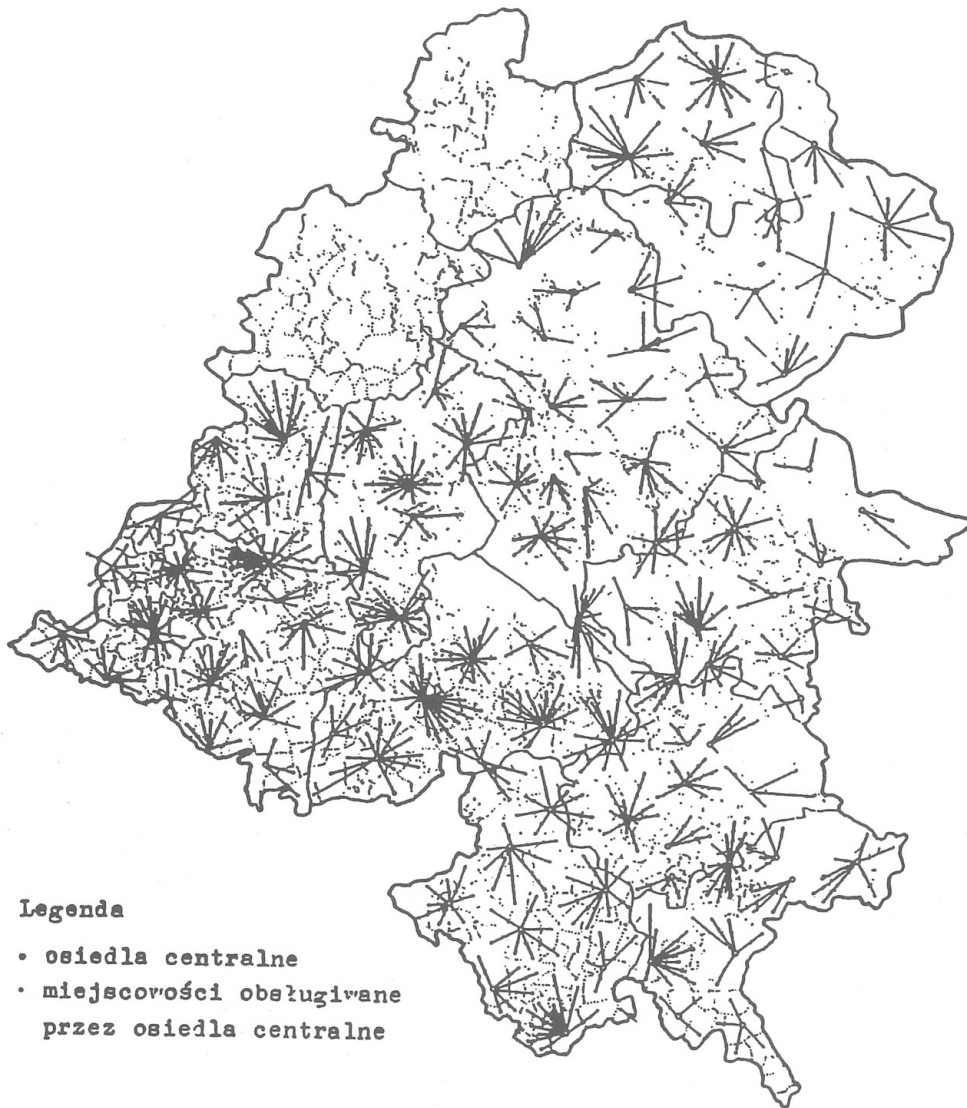
の部分がポーランドへ割譲)は人口過密なため、人口分散を図るべき地区であるとされている。それに対し、シュレージエン州の中央を縦貫するオーデル川右岸の、それに並行して走るポーランド国境までの地帯は人口密度が小さい上に、人口流出が続いているため、それを食い止めるのに農業の振興と工場誘致、そして文化的中心(点)の育成を図らねばならないとしている。とくにこの最後の点を受ける形で、ポーランド占領前の1939年3月18日付のシュレージエンとズデーテンラント(1938年9月にチェコスロヴァキアから分離併合)の国土計画に係る文書では、中心地について次のように記している。「……地域の中心地は地域開発計画策定のための骨格をなす。中心地とは、周辺地域の中心点として重要な「中心的」意義を有する都市、市場町、大きな教会所在村、また農業自治体ではない自治体である。この周辺地域は中心地の「補完地域」と呼ばれる。中心地は交通の結節点であり、文化生活、医療および行政サービス、職業生活、産業経済、商業、旅館業等の集合点である。」(Golachowski, 1964, p. 171)。Kerl(1936)の書でいう「中心(点)」(Mittelpunkte)に対して、ナチ・ドイツ国土計画論者たちによって中心地理論が受容された後では、「中心地」(Zentrale Orte)という用語があてられるようになったことがよくわかるであろう。

工業、商業、文化、教育、行政、そして住宅団地を特定の中心地に集中させて強化することにより、「何のとりえもない地方に活気を呼び、血行を促し、それがついには居住地の中まで及び」(Golachowski, 1964, p. 171)、地方から大都市への人口移動を阻止することにつながるのである。しかし、東部国境地域の中心地に建設される住宅団地は、中部ドイツや西部ドイツから連れられてくる入植者のためのものであるため、中心地はゲルマン化植民運動の一翼を担うものであった。こうして中心地はドイツの本質と文化生活の拠点となり、周辺地域のスラブ系民族のゲルマン化促進のためにも利用される。そして、ズデーテンラント分離併合前の1938年4月18日付の同様の文書によれば、「国境地域では国土の確保と確定により異民族に侵入の機会を与えず、さらには前哨として前線地域にあるドイツ国民およびドイツ語の島嶼のための強固な後ろ盾を形成」(Golachowski,

1964, p.173) するのが中心地であるとさえ記されている。

つまりは、第1図に示す中心地は、いわゆる中心地とはやや性格を異にし、そこに集住するドイツ人が周辺農村に居住するポーランド人を支配する拠点としての役割を担わされているのである。歴史的には、シュレージエン地方は、1163年にポーランドから分離されたが、13世紀以降、多くがポーランド人領主に請われる形で入植したドイツ人と現地のポーランド人が混住する地域であっ

た(イグネ, 1997, pp.225-248)。そして、プロイセンがオーストリアから奪ったシュレージエン地方がドイツに正式に領有されるようになるのは、1763年以降のことである(阿部, 1998, p.172)。オーバーシュレージエンだけを取り出してみても、ドイツ風の文化がみられるとはいうものの(Hartshorne, 1933, p.208)、ポーランドに割譲されなかった南東部では、1921年に行なわれた住民投票においてポーランド帰属を支持した人が5割を超え(オウヴァリー, 2000, p.17)、ポーランド



第2図 オーバーシュレージエンの中心地と従属集落(1941年)

注) 凡例の黒丸は中心地, 小さな黒丸は従属集落を表わしている。

出典: Kaniówna (1963, p. 98)

人が卓越し (Hartshorne, 1933, p.211), オーデル川以西の西部と都市部を除き, 農村部一帯ではポーランド語が日常言語として使用されている (Hartshorne, 1933, p.205) というように, 「ドイツ (ゲルマン)」と「ポーランド (スラブ)」が混雑する非常に複雑な地域であった。加えて, (オーバー) シュレージエンは東部国境地域の中ではナチ・ドイツによって迫害されるユダヤ人も多く住んでいた (Freeman, 1987, p.77)。したがって, いかに効率的にドイツ人がポーランド人を中心とした異民族を支配下におくかということ, ナチ・ドイツにとって大きな課題であったといえよう。

第1図に表わされている中心地ネットワーク再編計画が, その後のナチ・ドイツ国土計画でどのように利用されていったのかは不明であるが, 現ポーランドのオポーレ州内での103の中心地とその従属集落を記した資料 (その6月にナチ・ドイツがポーランド西部占領地からさらにソ連領内へ侵攻した1941年作成) に基づいて両者を線で結ぶと第2図のようになる (Kaniówna, 1963)。対

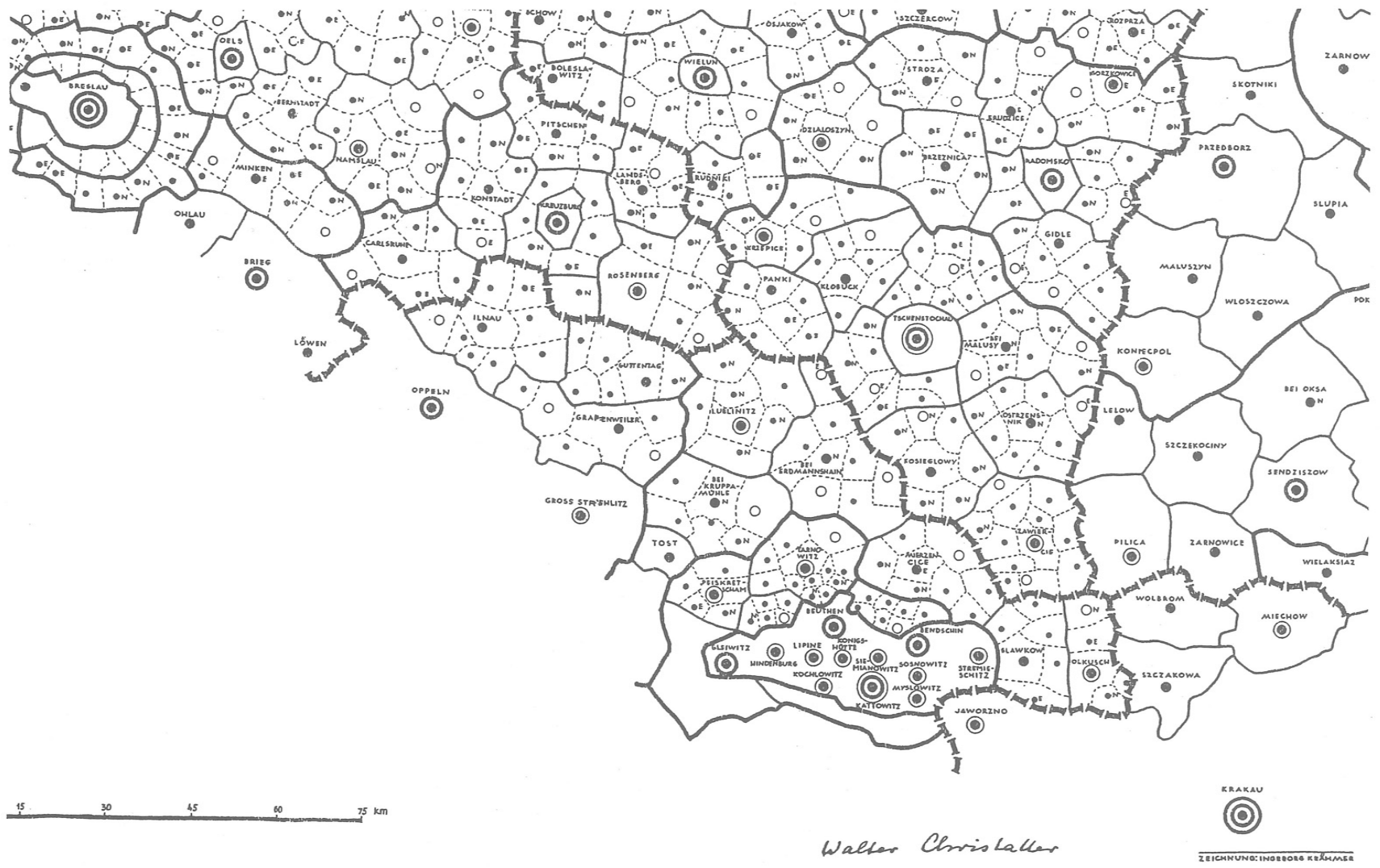
象範囲は, 南東部を欠くオーバーシュレージエン (オッペルン県) にほぼ相当している。第2図の左上の二つの郡 (Brzeg, Namysłów) の中心地ネットワークが描かれていないのは, これらの郡がナチ・ドイツ時代はニーダーシュレージエン州中部のブレスラウ県に属していたため, 当該資料を欠いているからである。相対的に人口密度の高い南部は中心地も多く, 従属集落も多い。一つの中心地の従属集落の数は様々であるが, 平均8集落である。

図の基になった資料では, 中心地は具体的に階層区分されていないが, 中心集落建設の指針によれば, 集落は普通農村と中心地に区分され, さらに中心地は低次中心地 (補助中心地), 中次中心地 (市場町), 高次中心地 (郡中心地) に区分される。各階層の集落が保有する施設・機能は第1表に示すとおりである (Kaniówna, 1963)。中心地が保有する機能が狭義の第3次産業の業種だけでないのは Christaller (1933) においてもそうであったが, 加えてナチ党の組織と中心地階層との間に対応関係があるのが一つの特色をなしている。

第1表 中心集落建設のための指針 (保有する施設・機能)

普通農村	中心集落		
	低次中心地 (補助中心地)	中次中心地 (市場町)	高次中心地 (郡中心地)
青少年の家	公共建物, 水泳プール	映画館, 公共図書館, 公園	劇場, 博物館, 屋内プール, ユースホステル
初等学校	スポーツスタジアム, 屋内運動場	中等学校, 職業学校, スケートリンク, スキーリージュコース	商業学校, 農業学校, その他の中等学校
学齢前教育施設	保健婦, 助産婦	医師, 歯科医, 獣医	病院, 老人ホーム, 療養施設, 屠殺場
首長	事務所長, ナチ党事務局	建築士, 疾病保険金庫, 弁護士, 公証人	郡長, 保険所, 地区裁判所, ナチ党郡委員長
郡出張所	郡代理人, 旅館	郡役場, 職業安定所支所, ホテル, カフェ	税務署, 職業安定所, コンサートホール付きカフェ
バス停留所	鉄道停車場, 薬店	鉄道駅, 農産品倉庫, マーケット広場, 大規模小売店	国家建築事務所, 登記所, 蒸留酒製造協同組合, 酪農協同組合
変電所	手工業企業, 貯蓄貸付組合	修理作業所, 工業企業, ガス製造所, 上水道	大工業
警備隊派出所	教会, 墓地	下水道, 廃水浄化・利用施設, 男子勤労奉仕隊宿泊所, 軍駐屯地	女史勤労奉仕隊宿泊所, 軍上級司令部

出典: Kaniówna(1963, p. 96)



第3図 ポーランド西部占領地区西側，オーバースレージエンと旧ポーランドとの国境地域付近の中心地ネットワーク

出典：Christaller (1941) の付図の一部。

注) 太い波線が大管区界を示している。プレスラウは図左上，クラカウは図右下に位置している。なお，オーバースレージエンの大管区の東端には鉱工業都市が多いため，中次階層の中心地が集中立地している。この図には作製者 Christaller の署名がなされている。

III 東方へ拡大する中心地ネットワーク

ところで、第2図の基になった資料が作成された同じ年、Christaller (1941) は周知のごとくポーランド西部占領地区のうち、ナチ・ドイツの領域となったその西側（ワルシャワを含む東側はポーランド総督府として別の支配下におかれた）の中心地ネットワーク再編案を図示している。この図のうち、オーバーシュレージエンと旧ポーランドとの間の国境地域付近を示したのが第3図である。Christaller (1941) の案では、中心地は最低次の主邑 (Hauptdorf; 人口 600 人) から最高次の大管区 (Gau) 首都 (Gauhauptstadt; 人口 45 万人) まで、7 階層に区分されている。中心地のうちのいくつかは、「新設すべき中心地」、(理論上想定される人口規模に達していないので)「発展させるべき中心地」、(理論上想定される人口規模を上回っている)「衰微させるべき中心地」とのコメントが付されている。一方、Christaller (1933) のオリジナル理論の補完地域に相当する文化・市場地域は、7 階層個々に厳密に設定されておらず、階層横断的に 4 種に分けられている。

具体的な中心地の配置は、次のようにして決められている。すなわち、Christaller (1933) のオリジナル理論の K 階層の中心地に相当する、中心地間距離 20km の官庁所在都市 (Amtsstadtchen) を基準にして、下位 2 階層の中心地、上階 4 階層の中心地を順次決定していくのである。対象地域では、1939 年までのドイツ東部国境地域やポーランド総督府領との境界地区を除き、域内で完結する三つの大管区 (ダンチツヒ (現ポーランド・グダンスク)、ポーゼン (現ポーランド・ポズナン)、リッツマンシュタット (現ポーランド・ウッジ) をそれぞれ首都とする北 (東) 部、中部、南 (東) 部) が設定されている。

オーバーシュレージエンの大管区は、ほぼ東西を、ブレスラウを首都とする大管区とクラカウ (現ポーランド・クラクフ) を首都とする大管区にはさまれるとともに、オーバーシュレージエンの北東部はブレスラウの大管区に組み込まれている。そして、オーバーシュレージエンの大管区首都はといえば、本文中での記述に従うと、第3図の下方外側、南に想定されている。1939 年 3 月併合以

前のチェコスロバキアとの国境間近のラチボール (現ポーランド Racibórz) がそれである。ラチボールは、丁度三角形の各頂点をなすブレスラウ、クラカウ、ブリュン (現チェコ・ブルノ) の三つの大管区首都との位置関係 (どちらかというクラカウに近い) と交通条件に基づいて、オーバーシュレージエンの大管区首都に擬せられ、将来的には人口 45 万人の都市への成長が見込まれている。

Christaller (1941) の中心地ネットワーク再編案と第2図との関係は不明であるが、第1図にあげられている中心地の地名と第3図のものを比較すると、第1図最上部の Landsberg, Kreuzburg, Krzepice から最下部の Gleinitz, Hindenburg まで、12 の中心地を第3図で確認できる。このうち、Kreuzburg と Gleinitz はオッペルンとともに郡都 (Kreisstadt) に分類されている。ちなみに、ポーランド領にあった Lublinitz がオーバーシュレージエンの大管区に組み込まれていることに示されるように、オーバーシュレージエンの大管区はポーランドとの旧国境の東まで入り込んで設定されている。また、Lublinitz から北西にかけて、旧国境線沿いには、N の記号が傍に付されている「新設すべき中心地」が幾分多いように見受けられる。この例からみても、オーバーシュレージエン国土計画共同体による中心地ネットワーク再編計画は、将来のポーランド占領を念頭において練られていたといえよう。

IV むすび

従来、ナチスが政権を取った 1933 年以降、1939 年のポーランド占領までの間に、中心地理論がドイツの国土計画に実際に応用された事例は報告されてこなかった。本稿は、東部国境地域オーバーシュレージエンにおいて、国土計画の一環として、中心地理論が (国境を越えた) 中心地ネットワーク再編問題に応用された事実を、ポーランド語文献によって明らかにした。この再編計画は、Christaller (クリスタラー, 1969, p. 159) に従えば、本来国境のこちら側にあった中心地システムが人為的な国境画定によって分断されることに伴って生じたさまざまな問題を解決するための一つの方策といえるかもしれない。しかし、中心地が支配・防衛拠点をも兼ねていたという点におい

て、その試みは、ナチ・ドイツがポーランド占領後に目論んだ集落再編計画に向けての「予行演習」という意味合いを有するものであったのではないだろうか。

(首都大学東京・都市環境学部)

文献

- 阿部謹也 (1998) : 『物語ドイツの歴史—ドイツのとは何か—』(中公新書 1420) 中央公論新社, 345p.
- イグネ, C. 著, 宮島直機訳 (1997) : 『ドイツ植民と東欧世界の形成』彩流社, 460+95p. Higounet, C. (1986): *Die deutsche Ostsiedlung im Mittelalter*. Wolf Jobst Siedler Verlag GmbH., Berlin, 405S.
- オウヴァリー, R. 著, 永井清彦監訳・秀岡尚子訳 (2000) : 『地図で読む世界の歴史 ヒトラーと第三帝国』河出書房新社, 132p. Overy, R. (1996): *The Penguin Historical Atlas of the Third Reich*. Swanston Publishing Ltd., London, 143p.
- オーバークローメ, W. 著, 小野清美訳 (2001) : 歴史, 民族および理論—『国境地域・外国在住ドイツ民族ハンドブック』—。シュットラー, P. 編, 木谷 勤・小野清美・芝 健介訳 : 『ナチズムと歴史家たち』名古屋大学出版会, 77-94. Schöttler, P. Hrsg. (1997): *Geschichtsschreibung als Legitimationswissenschaft 1918-1945*. Suhrkamp Verlag, Frankfurt a. M., 344S.
- ケルル, H. 著, 中島清二訳 (1940) : 『国中央計画と国土計画』出版機関不詳, 106p. Kerrl, H. (1936): *Reichsplanung und Raumordnung*. Lammers, H. H. und Pfundtner, H. Hrsg.: *Grundlagen Aufbau und Wirtschaftsordnung des nationalsozialistischen Staates*. Band II, 24a. Industrieverlag Spaeth & Linde, Berlin, 64S.
- Christaller, W. (1933): *Die zentralen Orte in Süddeutschland: Eine ökonomisch-geographische Untersuchung über die Gesetzmäßigkeit der Verbreitung und Entwicklung der Siedlungen mit städtischen Funktionen*. Gustav Fischer, Jena, 331S. クリスタラー, W. 著, 江澤譲爾訳 (1969) : 『都市の立地と発展』大明堂, 396p.
- Christaller, W. (1941): *Die zentralen Orte in den Ostgebieten und ihre Kultur- und Marktbereiche*. Struktur und Gestalt der zentralen Orte des deutschen Ostens Teil I. K. F. Koehler Verlag, Leipzig, 22S.
- Freeman, M. (1987): *Atlas of Nazi Germany*. Macmillan Publishing Company, New York, 205p.
- Golachowski, S. (1964): Rola teorii Christallera w planowaniu Hitlerowskim na Śląsku. *Studia Śląskie*, 10, 167-177.
- Granicky, G. (1939): Die Kulturlandschaft des Wohlauer Altkreises: Ein Beitrag zur Siedlungs- und Wirtschaftskunde einer schlesischen Landschaft. *Voröffentlichungen der Schlesischen Gesellschaft für Erdkunde E. V. und des Geographischen Instituts der Universität Breslau*, 27, 208S.
- Hartshorne, R. (1933): Geographic and political boundaries in Upper Silesia. *Ann. Assoc. Amer. Geogr.*, 23, 195-228.
- Herb, G. H. (1977): *Under the Map of Germany: Nationalism and Propaganda 1918-1945*. Routledge, London, 250p.
- Kaniówna, C. (1963): Problem osiedli centralnych w byłej rejencji Opolskiej(Komunikat naukowy). *Materialy i Studia Opolskie*, 4, 95-99.
- Rössler, M. (1990): *Wissenschaft und Lebensraum: Geographische Ostforschung im Nationalsozialismus*. Dietrich Reimer Verlag, Berlin, 288S.
- Schmölders, G. (1938): Universität Breslau. Meyer, K. Hrsg.: *Volk und Lebensraum: Forschungen im Dienste von Raumordnung und Landesplanung*. Kurt Vowinckel Verlag, Heidelberg, 443-447.